

- 1 子宮外妊娠について正しいのはどれか。
- 全妊娠の5%に発症する。
 - 卵管峡部妊娠の破裂は稀である。
 - 卵管膨大部妊娠は早期に破裂する。
 - 卵管間質部妊娠は子宮内容除去術で治癒する。
 - 頸管妊娠には子宮動脈塞栓術が有用である。
- 2 神経症性障害・ストレス関連障害と症候の組み合わせで誤っているのはどれか。
- 強迫性障害———反復思考
 - 広場恐怖———アンヘドニア
 - 転換性障害———失声
 - 不安障害———パニック発作
 - 外傷後ストレス障害———フラッシュバック
- 3 真菌感染が原因の疾患はどれか。2つ選べ。
- 疥癬
 - 丹毒
 - 足白癬
 - Celsus禿瘡
 - 伝染性膿痂疹
- 4 回転性めまいに難聴を伴うのはどれか。
- Wallenberg症候群
 - 良性発作性頭位性めまい
 - subclavian steal syndrome
 - Meniere病
 - 前庭神経炎
- 5 眼窩吹き抜け骨折（フローアウト骨折）で見られないのはどれか。
- 複視
 - 上転障害
 - 共同偏視
 - 結膜出血
 - 頬部知覚低下
- 6 冠攣縮性狭心症において冠攣縮を誘発する薬物はどれか。
- ニコランジル
 - ベラパミル
 - アセチルコリン
 - アミノフィリン
 - イソプロテレノール
- 7 34歳の男性。慢性B型肝炎キャリアーとの診断で紹介受診した。当てはまらない検査データはどれか。
- HBs抗原陽性
 - HBe抗原陽性
 - HBc抗体陽性
 - HBs抗体陽性
 - HBV DNA陽性
- 8 先天性横隔膜ヘルニアで見られるのはどれか。
- 右側に発生することが多い。
 - ヘルニア嚢を有することが多い。
 - 最も多いのは食道裂孔ヘルニアである。
 - 肺組織は正常に発達していることが多い。
 - 新生児遷延性肺高血圧症を呈することが多い。
- 9 末梢血塗抹標本の好中球アルカリホスファターゼ染色について、正しいのはどれか。2つ選べ。
- 好中球の核が染色される。
 - 好中球の染色性の程度も評価の指標となる。
 - 発作性夜間血色素尿症では染色性が亢進する。
 - 慢性骨髄性白血病（慢性期）では染色性が低下する。
 - 半日経過した末梢血塗抹標本でも染色が可能である。
- 10 アンジオテンシンⅡ受容体拮抗薬（ARB）の投与を避けるのはどれか。2つ選べ。
- 心筋梗塞
 - 両側腎動脈狭窄
 - 高カリウム血症
 - 良性腎硬化症
 - 急性間質性腎炎

- 11 前立腺肥大症の重症度診断に**不要な**項目はどれか。2つ選べ。
- CT
 - 検尿
 - 超音波検査
 - ウロフロメトリー
 - IPSS-QOLスコア
- 12 間脳・視床下部性無月経を来す症候群はどれか。2つ選べ。
- Turner症候群
 - Asherman症候群
 - Sheehan症候群
 - Chiari-Frommel症候群
 - Kallmann症候群
- 13 脳腫瘍による頭蓋内圧亢進のメカニズムとして誤っているのはどれか。
- 脳血流の低下
 - 腫瘍容積の増大
 - 髄液の吸収障害
 - 静脈系の閉塞による静脈還流障害
 - 脳室系の閉塞による髄液流通障害
- 14 神経筋接合部の病気はどれか。2つ選べ。
- Guillain-Barre症候群
 - 重症筋無力症
 - 筋萎縮性側索硬化症
 - POEMS症候群
 - Lambert-Eaton症候群
- 15 原発性アルドステロン症の診断に有用でないのはどれか。
- 腹部CT
 - 食塩水負荷試験
 - フロセミド立位負荷試験
 - ^{131}I -MIBGシンチグラフィ
 - 選択的副腎静脈サンプリング
- 16 マイコプラズマ肺炎に有効な治療薬はどれか。2つ選べ。
- マクロライド
 - カルバペネム
 - バンコマイシン
 - ニューキノロン
 - β ラクタマーゼ阻害薬配合ペニシリン
- 17 市中肺炎の重症度の把握に用いられる「A-DROPシステム」で使用されている指標でないのはどれか。
- 年齢
 - 白血球数
 - 意識レベル
 - 収縮期血圧
 - 経皮的酸素飽和度 (SpO_2)
- 18 ブドウ球菌が産生しないのはどれか。
- 溶血毒素
 - ペロ毒素
 - 腸管毒素
 - 剥脱性毒素
 - 白血球溶解毒素
- 19 糞便検査で検出された小型の寄生虫卵を示す。感染しているのはどれか。
- 鉤虫
 - 蟯虫
 - 肝吸虫
 - 広節裂頭条虫
 - 日本住血吸虫

20 μm

小型の寄生虫卵

20 28歳の初産婦。妊娠8週で食欲不振、悪心・嘔吐を主訴に入院管理となった。

輸液療法を行う際に投与すべき必須のビタミンはどれか。

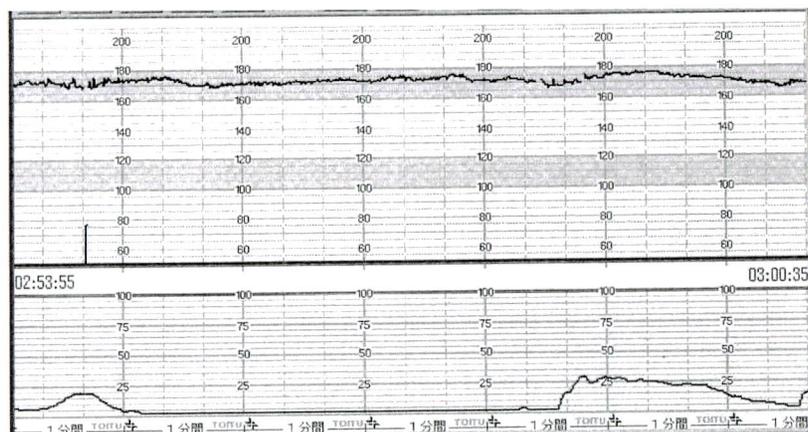
- a A
- b B
- c C
- d D
- e E

21 28歳の初産婦。妊娠32週、妊娠高血圧症候群で入院管理中のNST (non stress test) 所見を示す。

超音波断層法で羊水指数 (AFI) は7 cm、胎児推定体重は1,600gで手掌の開閉動作 (1回/30分)、胎動 (3回/30分) を認めるが呼吸様運動は認めなかった。

バイオフィジカルプロファイルスコアは何点か。

- a 2
- b 4
- c 6
- d 8
- e 10



入院管理中のNST (non stress test) 所見

22 17歳の男子。二次性徴発現の遅れを主訴に来院した。身長179cm。四肢が長くarm span は身長より長い。女性化乳房がみられる。外性器は男性型であるが陰毛はなく精巣も小さい。X 染色質が1つ観察される。

正しいのはどれか。

- a 知的障害
- b 日光過敏
- c 特徴的顔貌
- d 性同一性障害
- e 尿中ゴナドトロピン高値

23 17歳の男子。9か月前くらいから昼夜逆転の生活となり、心配した母親に付き添われて来院した。高校に入学して友人もでき、問題なく学校生活を送っていた。9か月前くらいから徐々に口数が少なくなり、最近は自室に閉じこもっていることが多いという。「誰かにみられている」とカーテンを締め切り、「自分の考えが隣の人に筒抜けになっている」と話す。意識は清明だが表情は硬く、時々小声でブツブツと意味が分からないことを話している。

適切な治療はどれか。

- a 睡眠薬
- b 抗うつ薬
- c 抗不安薬
- d 向精神薬
- e 感情調整薬

24 8歳の男児。学校の担任に勧められ、母親が本人を連れて受診した。母親の話では、家庭では少し元気なくらいで大きな問題はないのだが、学校では授業中に目的がないのに立ち歩いたり、他児の発言にすぐ口を挟むなど落ち着きがなく、注意するとその時は「わかりました」と了解するが、すぐに同じことをしてしまうとのことである。家での生活を詳しく聞いてみると、しばしば椅子から飛び降りて怪我をしたり、おもちゃで遊んでいると、短時間で次のおもちゃに注意が移り、片付けがなかなかできないとのことである。血液検査、頭部MRI検査、脳波検査では、いずれも明らかな異常所見は認めない。

正しいのはどれか。

- a β 刺激薬が奏効する。
- b 女児に多くみられる。
- c 学校の授業の進め方に問題がある。
- d 家庭でのしつけを強化すべきである。
- e 成長とともに症状が落ち着く症例が多い。

25 80歳の女性。前胸部に写真のような皮疹が出現した。

診断に有用なのはどれか。

- a 貼付試験
- b 皮内試験
- c Tzanck試験
- d ブリックテスト
- e 最小紅斑量試験



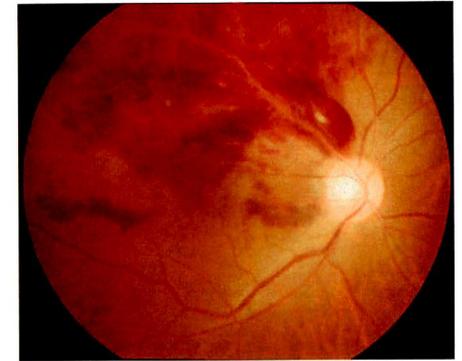
皮疹

26 45歳の男性。最近1か月間、残業続きで多忙な毎日を過ごしていた。昨日朝起床時に鏡を見たところ、右眼の白目が赤くなっている事に気付いて来院した。眼脂、流涙、掻痒感等、他の自覚症状は全く認めない。矯正視力は(1.2)と良好であり、右眼に結膜下出血を認めた。

対処法として、最も適切なのはどれか。

- a 経過観察
- b 圧迫眼帯
- c 抗生剤の点眼
- d 止血薬の内服
- e 出血部位の切除

27 65歳の男性。2か月前より右眼の視力低下を主訴に来院した。視力は右眼0.1(0.4×+1.5D)、左眼0.8(1.2×+1.00D)。左眼の眼底に異常はみられない。右眼の眼底写真を示す。



右眼の眼底写真

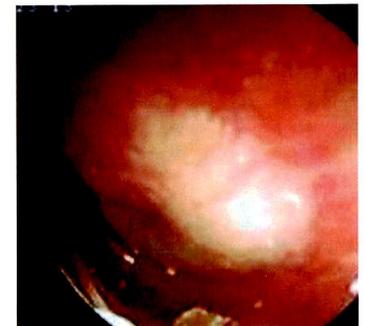
考えられるのはどれか。

- a 加齢黄斑変性
- b Vogt-小柳-原田病
- c 裂孔原性網膜剥離
- d 網膜静脈分枝閉塞症
- e 網膜中心動脈閉塞症

28 3歳の男児。4日前から咳と黄色鼻汁があった。昨夜より左耳痛を訴えて来院した。耳鏡所見を示す。

考えられるのはどれか。

- a 耳硬化症
- b 急性中耳炎
- c 急性外耳道炎
- d 真珠腫性中耳炎
- e 先天性耳瘻孔化膿症

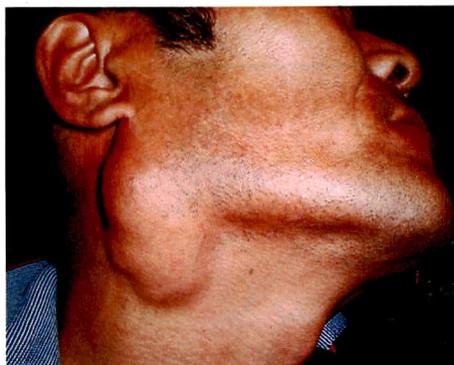


耳鏡所見

29 57歳の男性。3年前から頸部腫脹を自覚していたが痛みもなく増大傾向もないため放置していたが家族に受診を勧められたため来院した。頸部の写真を示す。初診時、腫瘤の表面は凹凸不整、弾性硬で可動性は良好である。顔面神経麻痺はない。

最も考えられるのはどれか。

- a 側頸嚢胞
- b 顎下腺癌
- c リンパ管腫
- d 耳下腺多形腺腫
- e 転移性頸部リンパ節腫脹



頸部の写真

30 生後2週間の乳児。顔の写真を示す。

正しいのはどれか。

- a 中枢神経系の合併症が多い。
- b 口輪筋は上口唇で断裂している。
- c 上顎前歯は5本程度欠如している。
- d 早期に挿管して呼吸管理が必要である。
- e 経口哺乳は出来ないため経管栄養とする。

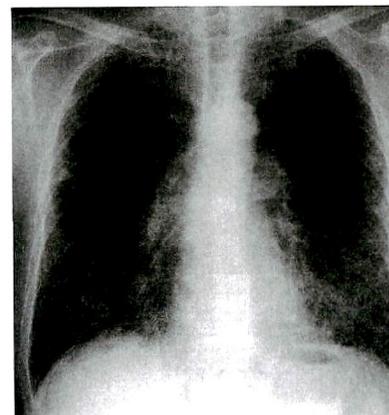


顔の写真

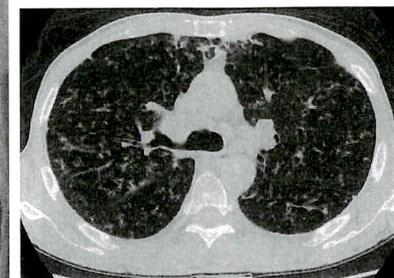
31 52歳の男性。労作時呼吸困難を主訴に来院した。35歳の頃から咳嗽、粘膿性痰および喘鳴を自覚していた。1年前から坂道や階段を上る時に呼吸困難を自覚するようになった。小学生時から慢性副鼻腔炎があり、2回の手術歴がある。喫煙歴はない。身長168cm、体重54kg、体温36.7℃。脈拍78分、整。血圧116/70 mmHg。軽度のばち指を認める。両側胸部に吸気時のcoarse cracklesと呼気時のwheezesを聴取する。血液所見：赤沈37mm/1時間、白血球数9,600。血清生化学所見：IgG 1,860mg/dl（基準960～1,960）、IgA 640 mg/dl（基準110～410）、IgM 240 mg/dl（基準65～350）。免疫学所見：CRP 4.3 mg/dl、寒冷凝集反応512倍（基準128以下）。喀痰から緑膿菌が検出された。胸部エックス線写真、胸部CTを示す。

治療として適切なのはどれか。

- a シクロスポリンの内服
- b エリスロマイシンの内服
- c ニューキノロン系抗菌薬の内服
- d 副腎皮質ステロイド薬の内服
- e 副腎皮質ステロイド薬の吸入



胸部エックス線写真



胸部CT

32 70歳の女性。突然の呼吸困難のため救急車で搬送された。普段は足が不自由なため、家で寝ていることが多い。受診時、意識清明。身長152cm、体重70kg。体温36.5℃。呼吸数42回/分、整。脈拍140/分、整。血圧90/60 mmHg。心音でⅡ音亢進。腹部平坦で圧痛、抵抗認めない。肝、脾を触知しない。動脈血ガス分析（自発呼吸、室内気）：pH 7.46、PaO₂ 68 Torr、PaCO₂ 36 Torr。心電図でⅡ、Ⅲ、aVFでST上昇、V1-3のST変化を認めた。

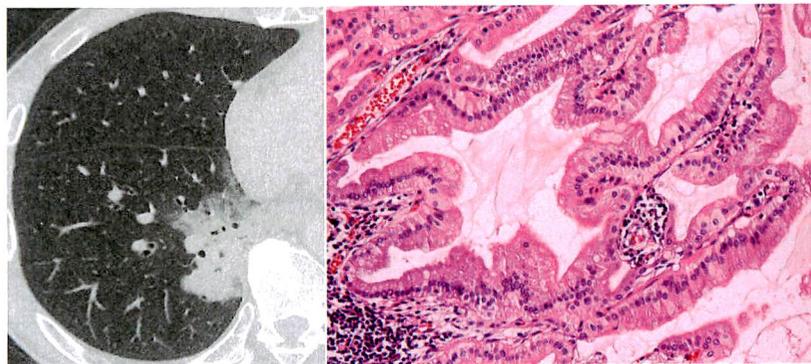
考えられるのはどれか。

- a 心筋炎
- b 緊張性気胸
- c 急性心筋梗塞
- d 肺血栓塞栓症
- e 心タンポナーデ

33 60歳の男性。検診の胸部CTで異常陰影を指摘され、気管支鏡検査が行われた。胸部単純CT及び生検による病巣の病理組織像を示す。

診断はどれか。

- a 腺癌
- b 小細胞癌
- c 肺結核症
- d 間質性肺炎
- e 扁平上皮癌



胸部単純CT

病巣の病理組織像

34 72歳の男性。陳旧性心筋梗塞後の慢性心不全により入退院を繰り返している。現在、自宅2階へ階段を途中で休まずに上りきれない。安静時に息切れはなく、夜間の呼吸困難（息苦しくて眠れずに起きあがるなど）もない。脈拍 85/分、整。血圧 122/80 mmHg。呼吸数 15/分。下肢浮腫と頸静脈怒張を軽度認め、湿性ラ音はないが、心奔馬調律が聴取される。

現在のNew York Heart Association (NYHA) 心機能分類はどれか。

- a I
- b II
- c III
- d IV
- e 提示されている情報では判定できない。

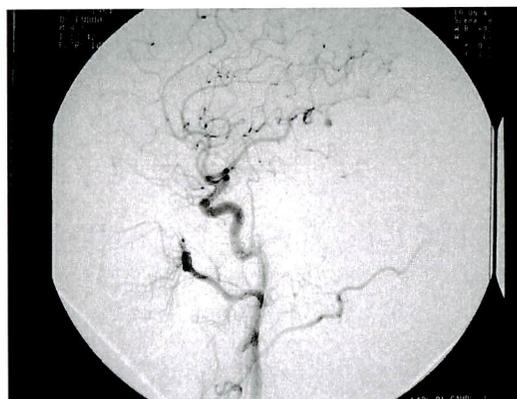
35 43歳の男性。3週前より38℃の発熱が出現。近医で経口抗菌薬を処方され一時解熱したが、1週目前より発熱続いているため来院。健康診断で心雑音を指摘されたことはあるが、自覚症状なく検査は受けていない。心臓超音波検査で、高度の大動脈弁逆流と可動性のある疣贅を認め、感染性心内膜炎の診断で入院となった。入院当日の夜、突然激しい頭痛を訴えた。頭部CTと脳動脈造影を示す。

初期治療として正しいのはどれか。

- a 抗菌薬の大量投与
- b 血栓溶解薬の投与
- c 脳室ドレナージ
- d 緊急開頭手術
- e 緊急開心手術

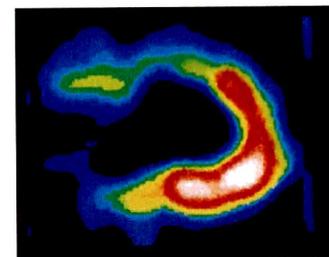


頭部CT

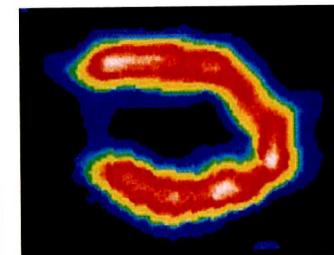


脳動脈造影

36 56歳の男性。1年前から階段や坂道を登ると胸の中央部に圧迫感を感じるようになったが、1～5分の休憩で消失していた。症状の頻度は週1回以下で、回数が増える傾向は認めない。運動負荷直後の²⁰¹Tl心筋シンチグラム長軸面垂直断層像と4時間後のシンチグラムを示す。



運動負荷直後の²⁰¹Tl心筋シンチグラム長軸面垂直断層像



4時間後のシンチグラム

考えられる診断はどれか。

- a 不安定狭心症
- b 閉塞性肥大型心筋症
- c 労作性狭心症
- d 心筋炎
- e 心サルコイドーシス

37 30歳の女性。食欲不振を主訴に来院した。身体診察所見で口唇に色素沈着がみられる以外に異常所見を認めない。血液検査にて軽度の貧血をみとめるのみであった。血清生化学検査:総蛋白7.0g/dl、アルブミン 3.6 g/dl、LDH 270 IU/l (基準260-530)、尿素窒素 16 mg/dl、クレアチニン 1.0 mg/dl、CEA 2.0 ng/ml (基準 5 以下)、CA 19-9 25.5 U/ml (基準 37 以下)。上部消化管内視鏡検査を示す。隆起部分からの生検組織からは過誤腫であるとの病理報告であった。

正しいのはどれか。

- a Cronkhite-Canada症候群
- b Peutz-Jeghers症候群
- c 家族性大腸腺腫症
- d Ménétrier病
- e 胃底腺ポリープ



上部消化管内視鏡検査

38 46歳の男性。黒色便と倦怠感を主訴に来院した。3日前に腹部不快感が出現し、タール状の黒色便を排出した。昨夜も黒色便を排出し、倦怠感も出現した。意識は清明。体温36.7℃。脈拍108/分、整。血圧90/70mmHg。眼瞼結膜に貧血を認める。腹部は平坦で軟らかい。血液検体を採取後、静脈路を確保し輸液を開始した。

まず行うべき検査はどれか。

- a 小腸造影
- b 腹部単純CT
- c 腹部超音波検査
- d 上部消化管内視鏡検査
- e 下部消化管内視鏡検査

39 生後8時間の新生児。在胎37週、出生体重2,100 g。自然分娩で出生した。妊娠中羊水過多があった。生後4時間から胆汁性嘔吐が認められた。胎便の排泄はない。

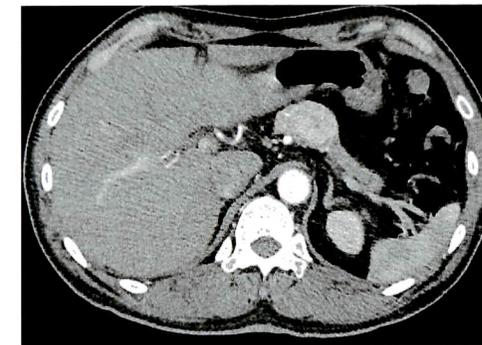
まず行うのはどれか。

- a 食道PHモニター
- b 腹部超音波検査
- c 下部消化管造影
- d 直腸肛門管内圧検査
- e 腹部単純エックス線写真

40 62歳の男性。1か月前より空腹時に気分不快と冷汗が出現するようになった。今朝より動悸、冷汗、意識レベルの低下がみられ受診となった。意識レベルはJCSI-2。身長167cm、体重60kg。体温36.2℃、呼吸数 16/分、脈拍 70/分、整。血圧 138/70 mmHg、赤血球390万、Hb 12.3 g/dl、Ht 33%、白血球数 8,100、血小板35万。血糖 48 mg/dl、総蛋白 6.4 g/dl、尿素窒素 13 mg/dl、クレアチニン 1.2 mg/dl、AST 34 IU/l、ALT 18 IU/l、LDH 181 IU/l (基準176~353)、Na 136 mEq/l、K 4.8 mEq/l、CL 100 mEq/l。腹部造影CT検査を示す。

最も考えられるのはどれか。

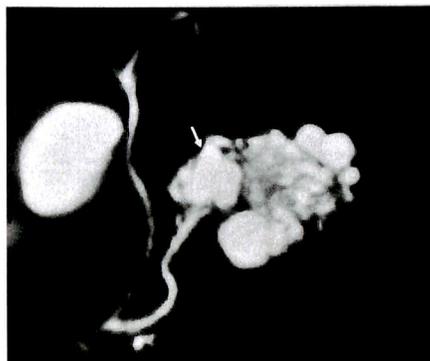
- a 膵管癌
- b 慢性膵炎
- c 仮性膵嚢胞
- d 膵内分泌腫瘍
- e 膵管内乳頭粘液性腫瘍



腹部造影CT検査

41 68歳の女性。健康診断の腹部超音波で膵腫瘤を指摘され来院した。自覚症状はない。

血液所見：赤血球 400万、Hb 12.0 g/dl、Ht 35%、白血球7,000、血小板 20万。血液生化学所見：総蛋白7.5 g/dl、アルブミン4.0 g/dl、尿素窒素20 mg/dl、クレアチニン1.0 mg/dl、総ビリルビン1.0mg/dl、AST 45 IU/l、ALT 30 IU/l、アミラーゼ150 IU/l（基準37~125）。腫瘍マーカー：AFP 10.0 ng/ml（基準 10.0以下）、CA19-9 68.0 U/ml（基準 37.0以下）、CEA 15.0 ng/ml（基準 5.0以下）。内視鏡的逆行性膵管胆道造影では、主乳頭の開口部は開大していた。磁気共鳴胆管膵管撮影を示す。



磁気共鳴胆管膵管撮影

考えられる疾患として正しいのはどれか。

- a 慢性膵炎
- b 膵頭部癌
- c 膵尾部癌
- d 膵内分泌腫瘍
- e 膵管内乳頭粘液性腫瘍

42 79歳の女性。2週間前より全身倦怠感、食欲不振、ふらつき感を覚えるようになり、近医受診した。半年前より便秘傾向（3日に1回くらい）がある。白血球 4,100、赤血球 309万、Hb 6.2g/dl、Ht 21.6%、血小板 26万。総蛋白 7.8 g/dl、アルブミン4.2g/dl、総ビリルビン 0.6 mg/dl、AST 32 IU/l、ALT 24 IU/l、LDH 185 IU/l（基準140 ~ 220）。尿検査は異常なし。上部消化管内視鏡検査は異常なし。

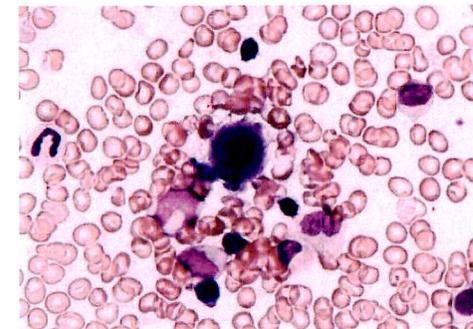
診断に必要な追加検査項目はどれか。2つ選べ。

- a 便潜血反応
- b クームス試験
- c 血清免疫電気泳動
- d 血清フェリチン値
- e 血清ビタミンB12値

43 5歳の女児。出血斑と鼻出血を主訴に来院した。血液検査で白血球数5,200/mm³、Hb 7.5g/dl、血小板数0.3万/mm³。肝脾腫大はない。全身倦怠感を訴える。骨髄所見を示す。

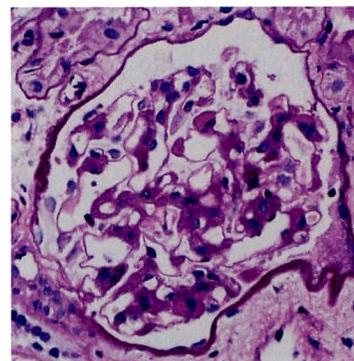
正しい治療はどれか。

- a 抗がん薬
- b 血小板輸血
- c 赤血球輸血
- d 免疫抑制薬
- e ガンマグロブリン大量療法

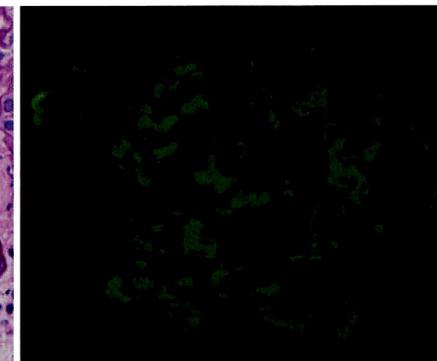


骨髄所見

44 22歳の女性。コーラ色の尿を主訴に来院。生来健康。2日前に咽頭痛、発熱を自覚。昨日よりコーラ色の尿を認めるようになった。来院時、血圧118/70mmHg。脈拍78/分、整。尿所見：蛋白3+、糖（-）、尿潜血3+、沈渣：赤血球多数/1視野、白血球1-2/1視野、顆粒円柱陽性。血液生化学所見：総蛋白7.4g/dl、アルブミン3.6g/dl、尿素窒素18mg/dl、クレアチニン0.7mg/dl。腎生検PAS染色標本及び抗IgA抗体を用いた免疫染色標本を示す。



腎生検PAS染色標本



抗IgA抗体を用いた免疫染色標本

この疾患の腎機能予後の指標はどれか。2つ選べ。

- a 血圧
- b 尿潜血
- c 尿蛋白
- d 血清IgA値
- e 血清アルブミン値

45 40歳の女性。昨夜からの悪寒戦慄を伴う39℃台の発熱、右腰背部痛を主訴に来院した。4日前から排尿時痛と頻尿がみられたが放置していた。

考えられるのはどれか。

- a 膣炎
- b 尿道炎
- c 膀胱炎
- d 子宮内膜炎
- e 急性腎盂腎炎

46 30歳の女性。9か月間の無月経を主訴に来院した。1年前からストレスのため不眠となり、抗不安薬と胃腸薬を処方されている。身長155cm、体重54kg。内診、超音波検査では子宮と卵巣に異常を認めない。

無月経の原因として最も考えられるのはどれか。

- a 妊娠
- b 体重減少
- c 早発閉経
- d 高プロラクチン血症
- e 多嚢胞性卵巣症候群

47 79歳の男性。排尿時に気泡と泡立ちを認め、次第に血尿および排尿時痛を認めるようになったため来院した。尿所見：蛋白(-)、糖(+/-)、潜血反応(2+)。沈渣に赤血球5-10/1視野、白血球30-50/1視野、桿菌(3+)。血液所見、血清生化学所見に異常は認められない。

診断に有用なのはどれか。2つ選べ。

- a 排便の状態
- b 既往歴の聴取
- c 結核の既往
- d 飲酒の有無
- e 喫煙の有無

48 72歳の男性。70歳時から、数か月に1度「頭の中が一瞬フワツ」としたり「自分が何をしているのか一瞬わからなくなる」ことがあったが、一瞬でおさまるために受診はしなかった。最近その頻度が増えておおむね週に1度前後となり、今朝の食事中には「フワツ」とした後に意識を失って床上に倒れ、数十秒後に意識が回復した。家人によるとけいれんはなかったが、心配になって来院した。特記すべき既往・家族歴はない。来院時には意識は清明で、身体診察にて特記すべき異常は認めず、血算、血液生化学、心電図、胸部エックス線単純写真、頸動脈エコーではいずれも異常は認められなかった。来院時の脳波の一部を示す(図中のL字形スケールは、縦が50マイクロボルト、横が1秒間を表す)。

さらに行う検査で、最も優先すべきなのはどれか。

- a 頭部エックス線CT
- b 聴性脳幹反応
- c ポリソムノグラフィ
- d Wechsler記憶スケール
- e 経口グルコース負荷試験

左前側頭部



右前側頭部



左中側頭部



右中側頭部



左後側頭部



右後側頭部



来院時の脳波の一部

49 1歳の男児。右頸部索状物と頸部可動域制限を主訴に来院した。生後2週から主訴を認め、改善していない。右先天性筋性斜頸と診断された。

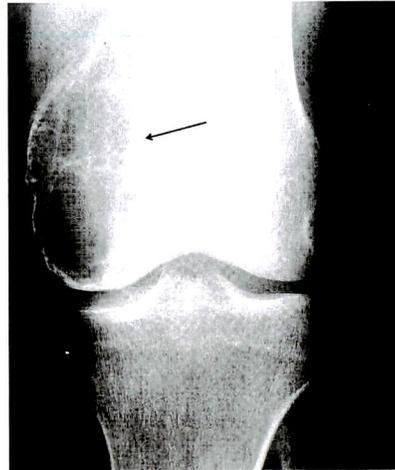
この疾患の身体所見でみられないのはどれか。

- a 僧帽筋の索状物
- b 顔面の非対称
- c 頭部の右傾斜
- d 顔面の左回旋
- e 頭蓋の変形

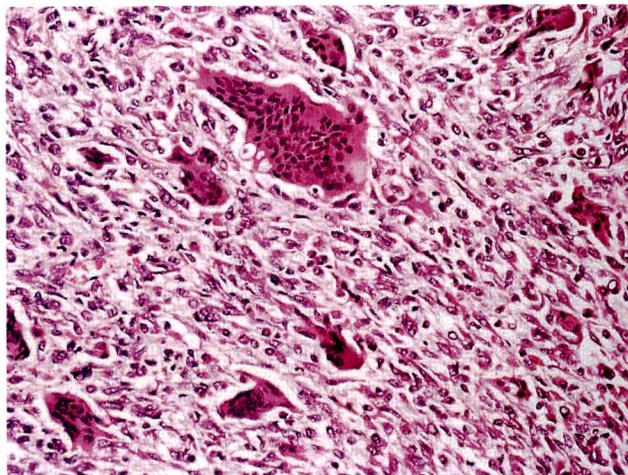
50 15歳の男子。左膝痛を主訴に来院した。3週間前、バスケットボールをした際に突然左膝痛が出現した。安静によって一時軽快したが、1週間前から痛みが再発し増悪傾向にある。初診時の左膝エックス線写真と大腿骨遠位部の骨生検PAS染色標本を示す。

診断はどれか。

- a 骨肉腫
- b 軟骨肉腫
- c 骨巨細胞腫
- d Ewing肉腫
- e 悪性線維性組織球腫



左膝エックス線写真

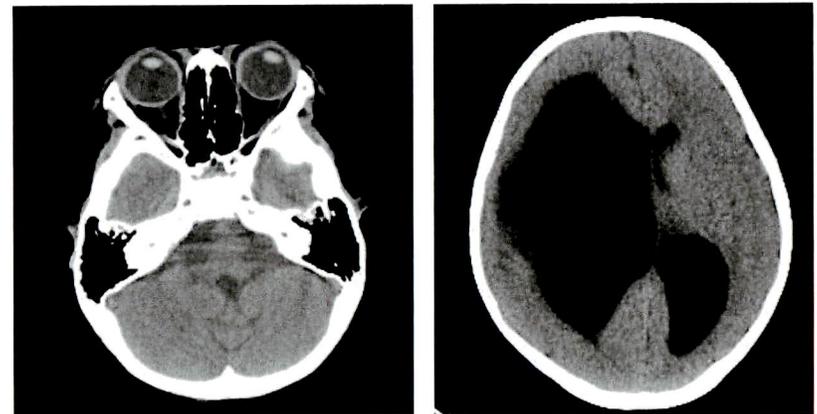


大腿骨遠位部の骨生検PAS染色標本

51 5歳の男児。2歳6か月時に急性脳症を発症し、片側性脳梗塞を伴う虚血性脳症を残した。現在、コミュニケーション能力に問題はないが、しばしば転倒することがある。その時点の脳波所見では、右側位に発作波を認めた。3歳時の頭部CTを示す。

この患者の現在の症状として正しいのはどれか。

- a 吃音
- b 失調性歩行
- c 回転性めまい
- d 症候性てんかん
- e 上下肢の右片麻痺



3歳時の頭部CT

52 42歳の女性。37.6℃の発熱と前頸部痛を主訴に来院した。2週間前より感冒様症状があり、市販の風邪薬を内服していた。来院時、甲状腺右葉に圧痛を伴う結節性腫瘍を認めた。頸部皮膚に発赤はみられない。赤沈1時間値85mm、CRP 7 mg/dl、TSH<0.01 μ U/ml (基準0.27~4.20)、F-T3 7.4 pg/ml (基準2.73~4.50)、F-T4 3.2 ng/dl (基準1.00~1.80)、抗サイログロブリン抗体陰性、抗甲状腺ペルオキシターゼ抗体陰性。

この患者に認められるのはどれか。

- a 洞性徐脈
- b 手指振戦
- c 前脛骨部粘液水腫
- d 下咽頭梨状窩瘻孔
- e ヨード摂取率上昇

53 33歳の女性。22歳時に糖尿病と診断された。以降、食事療法を行っていたが、血糖コントロールはやや不良であった。現在、妊娠9週である。身長158cm、体重58kg。眼底に点状出血を認める。尿所見：蛋白(±)、糖4+、ケトン体1+。血液生化学所見：空腹時血糖142mg/dl、HbA1c 7.1%、尿素窒素18mg/dl、クレアチニン0.5mg/dl、総コレステロール244mg/dl。現在、指示エネルギーは1,520kcal/日である。

治療として適切なのはどれか。

- a 指示エネルギーを1日1,200kcalに制限
- b スルフォニル尿素薬内服
- c チアゾリジン薬内服
- d インスリン注射
- e 運動療法

54 5歳の男児。家族とデパートに買物に行き、翌朝、ぐったりして起き上がらず、おなかが痛い」と訴えた。昼までに5～6回嘔吐し、救急外来を受診した。体温37.2℃。顔面蒼白、口唇軽度乾燥。腹部はやや陥凹、腹壁の緊張はやや不良で、上腹部の圧痛はあるが、筋性防御はない。項部硬直はない。同様なことは、これまでに3回あった。

まず行うのはどれか。2つ選べ。

- a 尿検査
- b 血糖検査
- c 髄液検査
- d 腹部超音波検査
- e 立位腹部エックス線単純撮影

55 30歳の男性。幼少時より繰り返す皮疹があり、近医でアトピー性皮膚炎と診断された。顔面に浮腫性の紅斑が多発する。四肢屈側及び頸部に紅褐色小丘疹が多発し苔癬化局面を形成している。全身の乾燥肌が著明である。白血球 5,800/ μ l 好酸球11%、IgE-RAST コナヒヨウダニ 5+、ハウスダスト 6+、卵白 1+であった。

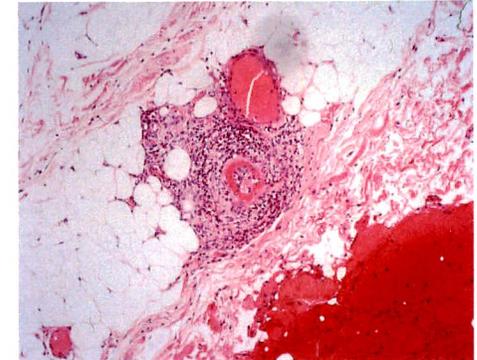
患者指導として正しいのはどれか。

- a 掃除を徹底させる。
- b 厳格な食事制限を行う。
- c 頻回の入浴をすすめる。
- d 保湿薬外用は不要である。
- e 積極的に副腎皮質ステロイド内服をすすめる。

56 71歳の男性。1か月前より39℃におよぶ発熱が出現した。近医にて非ステロイド抗炎症薬と抗真菌薬の投与を受けるも効果はなかった。2週間前より両側大腿から下腿にかけての筋肉痛が出現し、1週間前より乾性咳嗽と下腿の紫斑が出現したため来院した。体温38℃、血圧154/90mmHg。下腿に径2～4mm大の紫斑の集簇を認める。血液所見：赤血球361万、Hb 11.3 g/dl、白血球11,600、血小板27.7万。血液生化学所見：総蛋白5.5 g/dl、アルブミン2.5 g/dl、CRP 10.83 mg/dl (基準0.3未満)。筋生検所見を示す。

最も考えられるのはどれか。

- a 皮膚筋炎
- b 成人Still病
- c 結節性多発動脈炎
- d リウマチ性多発筋痛症
- e アレルギー性肉芽腫性血管炎



筋生検所見

57 5歳の男児。生来健康。今朝から38.5℃の発熱と咽頭痛が出現したため来院した。昨日までは元気になっていた。今朝から痛みで食事がとれない。

血液検査所見：白血球8,900 (リンパ球40% 単球15%)、CRP 2.1mg/dl

咽頭所見を示す。

正しいのはどれか。

- a コクサッキーウイルスが原因である。
- b 患者居住地の保健所への届け出が必要である。
- c 抗ウイルス薬が有効である。
- d 冬にピークが見られる。
- e 学校保健法により出席停止の規定がある。



咽頭所見

58 30歳の男性。健康診断にて胸部エックス線写真で、右上肺野に散布性陰影を指摘されたため、来院された。自覚症状はない。気管支鏡検査を行い、気管支洗浄液培養の結果、結核菌が検出された。

正しいのはどれか。

- a 治療には入院が必要である。
- b 陰影が消失したら治療は終了とする。
- c 治療は1剤より開始し、段階的に4剤まで増やす。
- d 治療開始時に最寄りの保健所長を経由して都道府県知事に届け出る。
- e Directly Observed Treatment Short Course (DOTS) は有効な治療方法である。

59 36歳の男性。

既往歴：特記事項なし。

現病歴：冬の凍った湖の上でテントを張り、コンロで暖を取りながら、ワカサギ釣りをしていたが、翌日テント内で倒れているところを釣り仲間に見られ、救急搬送された。

身体所見：体温（膀胱温）32℃、血圧80/60mmHg、脈拍48/分、整。

意識JCS 200、眼球；正中位、瞳孔；両側3mm、対光反射；両側迅速。

頭部CTを示す。

意識障害の原因として可能性の高いのはどれか。2つ選べ。

- a 脳梗塞
- b 低体温症
- c 低血糖脳症
- d 高血圧性脳症
- e 一酸化炭素中毒



頭部CT

60 30歳の男性。数か月前から新しい海峡間のトンネル建設に従事し、高気圧作業をくり返している。

この作業員に観察される可能性のある健康障害について正しいのはどれか。

- a 減圧時に窒素酔いを生じる。
- b 減圧症の治療には再加圧室を使用する。
- c 下降時の加圧によっては症状が発生しない。
- d 関節痛（ベンズ）は作業後数か月後におきる。
- e 減圧の速度が速くても症状の重症度と関係がない。